

Real Design

リアル・デザイン 差がつくモノ選びに必要なのは“デザイン”の見分け方。

手にするものは、いつも革

December 2007

880yen

12

2007年12月10日発行
定価160円
通巻22号(毎月1部1頁発行)

for Easy life
株式会社



革で揃える

ビジネスツール

仕事道具



仕事にもっとプライドを
一生モノの革靴

名刺入れ・財布・ペンケース
革の中は、もちろん革

毎日使う
仕事仕様の革靴

ショップが選ぶ
革靴に合わせるビジネスツール

東京ホテルはこう使う
ホテルのレストラン&手みやげガイド

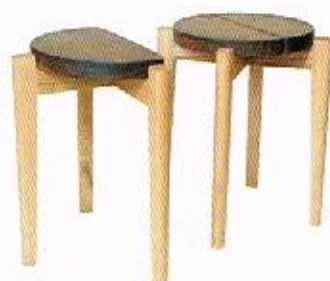
欲しくなるカタチがここにある
iPhone&モバイルツールカタログ

「作家」のエゴを捨て、 人のために作ること

木下 眞樹 氏 *Sanji Hosokai Mura*
 松岡 茂樹 氏 *Shigeru Hosokai Studio*
 住 東京都中央区本町1-1-1 TEL:03-531-5955 www.soma.gs

PROFILE

松岡茂樹 (まつおか・しげき)
 1977年生まれ。東洋美術学校インテリア科卒業後、日田工業株式会社に入社。椅子職人として数々のオリジナル作品を製作。2003年独立後も各種展覧会で入賞を果たすなど若手の注目株



1. 店舗用に作ることも多いというスタッキングスツール。2. 企業から依頼を受けてデザインした量産型サンプル品。3. 木製のシェルを張りぐるみにした試作品。そのほか、シンプルな椅子であれば、4脚上とめれば1脚3万円程度から製作可能。形やサイズなども好みにオーダーできる。4. 東京都調布市「森のギャラリー」の内装。店舗用内装や箱モノと併はれる収納家具、FRP製作も手がける。5. ベンチセット。「生活空間にあるものなら何でも製作可能」が松岡さんたちのワリだ



「作った椅子も職人としてある自分も、お客さんにとって便利じゃなければ使ってもらえない。そういう意味でつまらないエゴとかプライドって本当に邪魔だなと思っています」
 かつては椅子作家として毎日膨大な数の作品を作っていたこともあった。その松岡さんが、いま「お客さん個人々々の好みに合わせるのが、いい椅子づくり」とさりげんと言っている。それは技術も己に對する自負ももっているからこそ、言える言葉なのかもしれない。
 「結局この仕事の面白みって、お客さんが『こんな感じ』って思い描いているものを、具体的な形にしていることじゃないかと思っています。言ってみれば一種の人助け。「こんな感じ」は人によって全然違うし、場合によって『もうちょっと値段安く

なりませんか？』みたいな話だってある。でも、そういうものを捌いて乗り越えて、いいモノを作るっていうのが面白い。オーダー家具なので構えて来る人がわりと多いですけど、うちの場合はそういう心配、まったくくいらないです」
 じつはデザインワークスコマは、木工業界内でも最速といわれるくらいに仕事が速い。「椅子では食えない」という業界の定説を覆したのは、数を作って相殺するという単純痛快なバイタリティ。しかも仕上げは丁寧である。「職人としての矜持をもつとしたらそこでしょう」と松岡さんは言う。相変わらず弱々と。
 「いまの目標は1年以内に店を出すこと。内装から何から何まで全部うちの作品といえるものにして、お客さんに見てもらいたいです」

家具デザイナー

松岡茂樹